



「空き家」が縁を結ぶ

かもえない
～神恵内村「空き家」を活用した移住促進事業～

空き家に注目したきっかけは、村内にある家屋の約2割に当たる102軒もの家屋が空き家であるという厳しい現実でした。そこで、村が始めた取組が「DIY※がっしゅく」です。この取組は、神恵内村に実際に来てもらい、村の空き家を改修するとともに、神恵内村とはどんな村なのか、何があるのか、どんな魅力があるのかということを知ってもらいたいという役場職員のアイディアから生まれました。

江戸時代からニシン漁が盛んだった神恵内村は、大正元年にニシンの漁獲高が全道一位になるなど漁業を基幹産業として発展してきましたが、人口減少が進み、国勢調査によると、村の総人口は、昭和55年の2014人から、平成27年には1004人となるなど、35年間で1000人以上も減少しています。

その人口減少に歯止めをかけるため、村では平成28年3月に「神恵内村総合戦略」を策定。基本方針の一つに『新しい人の流れをつくる』という目標を掲げ、移住・定住に向けた住まいの確保として空き家に注目した取組を進めています。

「空き家」が縁を結ぶ①
神恵内村の「空き家」事情

アイヌ語で「カムイナイ（美しき神秘的な沢）」を語源とする神恵内村。積丹半島の西海岸に位置し、「シヤコタン・ブルー」と称されるほど美しい海に囲まれたこの村で行われている「空き家」を活用した移住定住対策の取組についてお話を伺いました。

（取材者 横浜、橋場、宮腰）

「空き家」が縁を結ぶ②
「DIYがっしゅく」

「DIYがっしゅく」は、平成28年5月から9月までの5か月間に4回開催。村に寄附された空き家の改修体験のほか、漁船クルージングなど、神恵内村を満喫できる体験メニューがあり、総勢約200人ものが集まりました。想定外だったのは、約9割の人が村外から参加しており、取組終了後も、村のイベント



▲ 空き家の取組を語る総務課長の稲船 義則氏(右)と企画振興係長の長船 孝宏氏(左)

※DIY(ディー・アイ・ワイ)・・・英語の「Do It Yourself(自分でやろう!)」の略で、家のリフォームなどを自分たちで行うこと。

に参加してくれたことです。その後、改修した空き家は、『神恵内村に内からも外からもいろんな御縁がありますように』と『神縁（かえん）』と名付けられました。そこで、村では『神縁』が結んだ参加者との縁を大切にしようとして「神恵内村ファンクラブ」を創設しました。

「空き家」が縁を結ぶ③ 「空き家」活用の難しさ

「DIYがつしゅく」の成功後、村では新たに空き家を活用したプロジェクトとして、村内の空き家等を活用して起業する方に対し、その改修費の一部を助成する制度を設けるとともに、移住希望者に対して、村内の空き家などを見学するツアーを始めました。

しかし、空き家の所有者の中には、『村の施設として役場に貸すなら問題ないが、見ず知らずの移住希望者に貸すことは抵抗がある』と話す方もおり、移住希望者が住みたいと思う空き家を村がなかなか紹介できず、助成制度の活用には至りませんでした。

そこで、村民の方々に空き家を活用した移住・定住施策を周知し、取組を理解いただくため、村では平成29年度から、固定資産税の納付書と一緒に、空き家を活用するプロジェクトのPRを同封して

おり、今では、空き家の所有者の方から『私の家を是非活用してほしい』という問い合わせが寄せられています。

「空き家」が縁を結ぶ④ 「ちよつと暮らし」が結ぶ縁

空き家を活用した取組が進み、移住に関する問い合わせが多くなる中で、移住希望者の新たな受け入れ環境を増やすため、村では、平成30年度から、1泊1000円で利用できる『移住体験住宅』を整備しました。紺碧に輝く「シヤコタン・ブルー」の海が見渡せる高台に立地しており、神恵内村の魅力を「ちよつと暮らし」で体験できるようにしています。

村では、引き続き空き家と移住体験施設を活用しながら、移住希望者の受け入れに向けた取組を進めていきます。



▲現在の「神縁」外観。内部は地域おこし協力隊の事務所として活用されている

地域おこし協力隊 岩佐 深介氏

私は札幌出身ですが、大学を卒業してから、システムエンジニアとして横浜市などの大都市で暮らしていました。ただ、エンドユーザーである利用者の方と接する機会がない仕事であり、「この仕事は自分でなくても良いのでは」と悩んだ末、ちよつと社会人10年目の節目で転職し、地域おこし協力隊となりました。「神恵内村」に来たきっかけは、海沿いの自治体を探していたときに、神恵内村が地域おこし協力隊を募集しており、「シヤコタン・ブルー」の海の写真がとても綺麗で心を惹かれたことが始まりです。

そのまま縁があつて、移住・定住推進担当の地域おこし協力隊となり、「DIYがつしゅく」に3回目から携わることになりましたが、元々DIYの経験もなく、丸ノコなどの専門的な道具も初めて使ったので、最初は怖々と作業をしていました。ただ、参加者は同年代の方が多



く、良い意味でルールに縛られず、それぞれの思いを胸にこの取組に自由に関わられたことで、今の「神縁（かえん）」を作りあげることができたと思っています。空き家は人が住んでいないだけで所有者がいます。その所有者と移住希望者の双方が、win-winな関係になることが大事だと思っています。また、所有者の中には、見ず知らずの人に空き家を貸すのは抵抗があると思う人がいるのも当然です。その中で、地域おこし協力隊として私が間に入ることで、信頼関係を築き、コミュニケーションをとりながら、空き家の所有者と移住希望者とをマッチングすることができれば嬉しいです。

私が来た2年前、村の人口は900人程度でしたが、今は880人程度と、どんどん住んでいる人が減っています。地域おこし協力隊の任期は残り1年ですが、将来的には、神恵内村の移住・定住に関わる仕事がしたいと考えており、特に若い人や子供がいる世帯などが、移住しやすい村にできればと思っています。

